

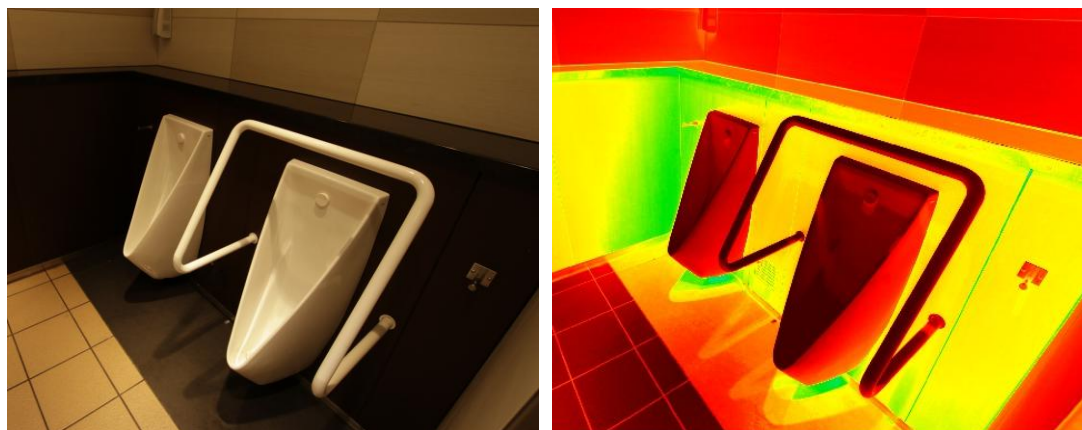
弱視者・色弱者を想定した トイレ空間の視認性評価手法

視覚障害をもつ旅客のための環境整備として、駅トイレ内設備の視認性を評価する手法を提案しました。対象物が立体の場合(衛生器具など)と平面の場合(個室扉など)に分けて、管理のための目安値を示しました。この評価手法は対象が木目柄の場合にも適用可能です。

特 徴

- 平面だけでなく、立体物を含む環境内の輝度分布に対応できます。
- 実空間で利用者が見る輝度比(実現輝度比)が弱視者の視認性を満たすように、設計に用いる素材レベルの輝度比(素材輝度比)を知ることができます。
- これに基づき、設計に必要な素材輝度比の目安値を、衛生器具まわりについては「2」、個室扉については「3」と提案しました。
- 対象が木目柄の場合にも適用可能です。

可視化した輝度分布



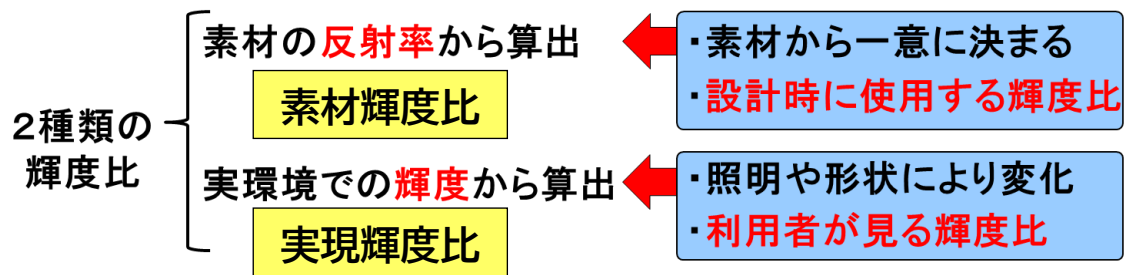
用 途

トイレ内設備(衛生器具や個室扉など)の色彩計画に用いることができます。

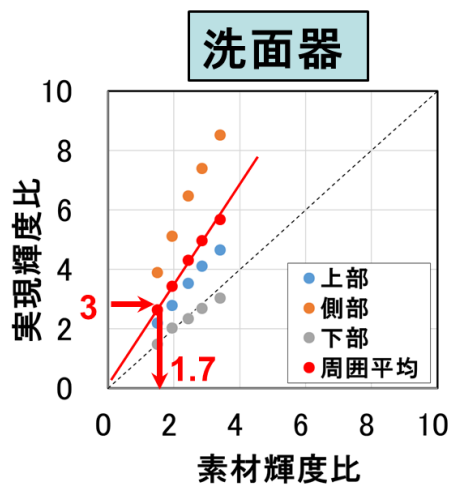
活用例

鉄道事業者において、駅トイレ内設備の視認性評価に活用されています。

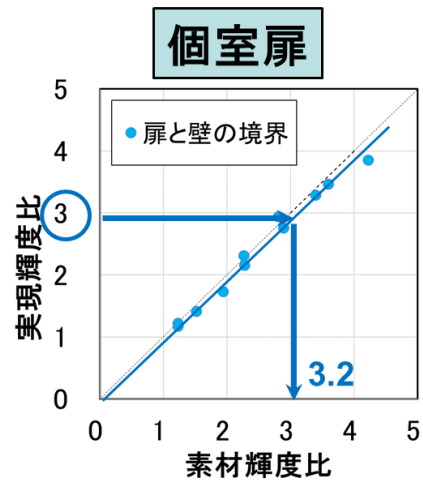
素材輝度比と実現輝度比



洗面器(立体物)と個室扉(平面)に必要な輝度比



実現輝度比 > 素材輝度比

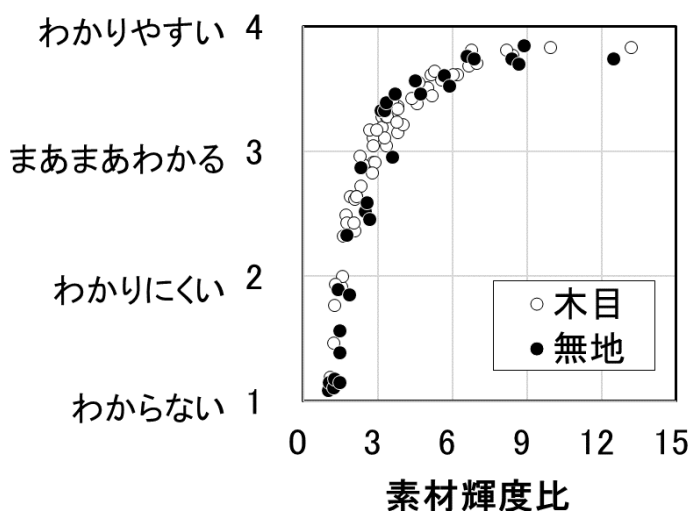


実現輝度比 = 素材輝度比

実現輝度比が「3」となるように、素材輝度比の目安値を提案

- ・衛生器具まわり ⇒ 素材輝度比2程度
- ・個室扉 ⇒ 素材輝度比3程度

木目試料と無地試料における、素材輝度比と視認性の対応関係 (実験結果)



5点の測定平均値を用いることにより、木目試料は無地試料と同様に扱える